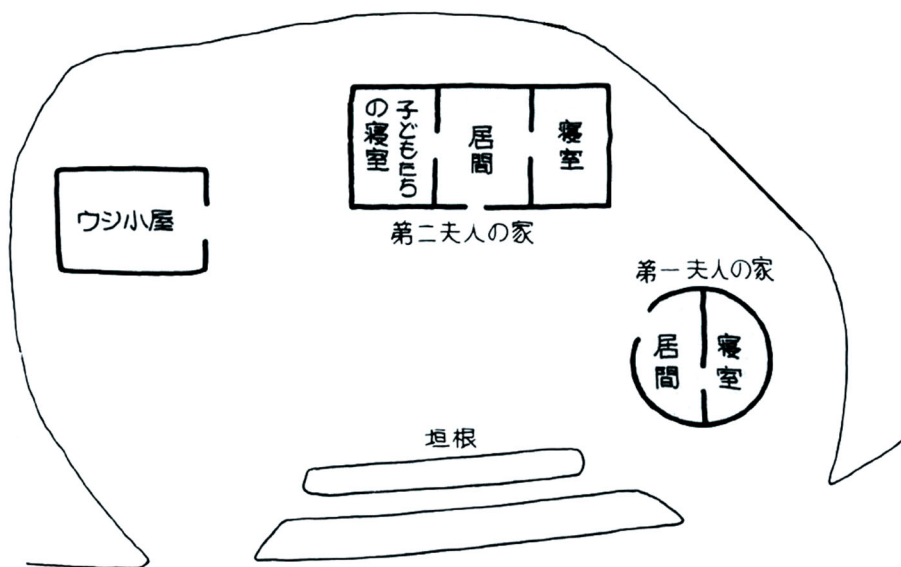


## タンザニア ニャキュウサの家

ニャキュウサの人びとは、東アフリカ、タンザニア南西部の山地、<sup>ひょうこう</sup>標高500～2000mのところに住んでいます。彼らが住むニャキュウサ・ランドは年間降雨量 2500mm 以上と雨に恵まれ、<sup>のうこう</sup>農耕に<sup>てき</sup>適した土地です。<sup>かちく</sup>家畜としてウシを飼<sup>か</sup>いながら、バナナ、トウモロコシなど 40 種近くの農作物を栽培<sup>さいばい</sup>して暮<sup>く</sup>らしています。



丸い家と四角い家：大きさの違いはえこひいき!?

ニャキュウサは<sup>いっふたさいせい</sup>一夫多妻制の<sup>けっこんせいど</sup>結婚制度をもっており、妻たちはそれぞれ別の家をもっていますが、一家の主人<sup>しゅじん</sup>の家はありません。円形の家は四角い家よりも古いタイプです。第1夫人の子供たちはすでに親元を離れ、畑のそばに新しい家を建て、共同生活を始めていますが、第2夫人の子供たちは幼いので家<sup>そうてい</sup>が大きいという想定です。

## ニャキュウサ女性の衣装：カンガ

### 【カンガとは？】

カンガはタンザニア、ケニアを中心とした東アフリカ（スワヒリ地域）に住む女性に広く着用されています。その始まりは19世紀中頃、海岸部に住む女性たちによって考えられ、広まったといわれています。

### 【カンガの着かたと特徴】

カンガは大きさ 1.6m×1.1m 程度の本綿の布です。2枚で1組とするのが基本です。

1枚は胸から下を覆い、もう1枚で上半身を覆ったり、頭に巻いたり、肩にかけたりして使います。同じ柄のものが2枚1組で売られますが、着る時には上下同じ柄でそろえることもあれば、別々の柄を組み合わせることもあります。



巻き方は何通りもありますが、腰に巻きつけるスカートスタイルが多く見られます。また、カンガは赤ちゃんの抱ひも紐やゆりかごにも利用されます。日常の服としても、祝い事や祭りのおしゃれ着としてもカンガは活躍します。

プリントされる柄は無数にあり、次々と新しいデザインが出回っています。カンガにはプリント柄のほかに、スワヒリ語の格言やメッセージが記されています。

### 【カンガから見えるアジアとのつながり】

カンガはタンザニア、ケニアのほかにもインドやマレーシア、中国でもデザインされ作られています。スワヒリ語を使っていない国でスワヒリ語が印刷されているのは興味深いことです。カンガに限らず多くの物がアフリカとアジアを行き来しています。東南アジア諸国（タイ、マレーシア等）では、衣料品、日用雑貨、電化製品などを買い付けに来たアフリカからの交易人の姿が見られます。その中にはニャキュウサ人の交易人もいます。